

續編孝義録料

卅二

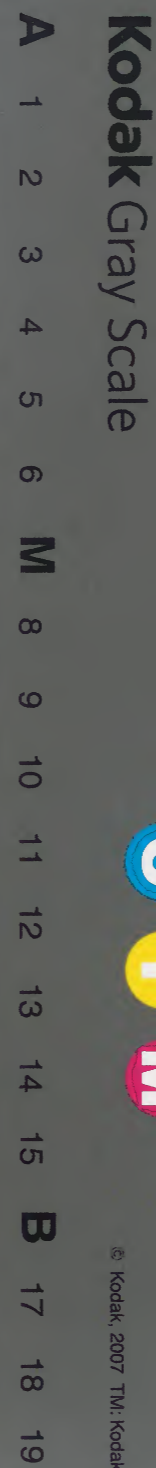
東山道三
信濃

改九十九

共四十二

内閣文庫	
番號	和 34594
冊數	90 (30)
函號	157 401

内閣文庫	
三五七函架	三四五九四冊號類
九	和書



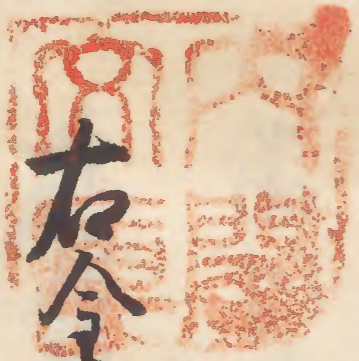
綴じ部(喉部分)の文字等が開きが不鮮明な場所あり

信濃國松代領分在町奉行御持者名目書

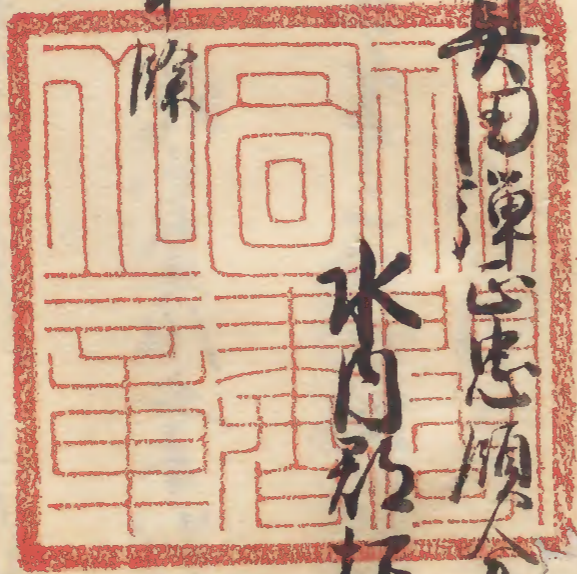
真田彈正忠家素

鈴木源兵衛

氣随少くして酒好む者なり
宜敷くも親方切仕人等
及六十歳病身者友



持高之石口斗除



真田源正忠願分

水内郡朽木村平組

百姓

今在奉

西巳六十一歳

酒酒並お給りて一社山中村に造下酒を宜折る
 好むは酒に取上り向出に紙を羽生り給ひ申す
 中業に相育老を名に以物に親年を以て病在
 南村母に在令りて先妻は以日以て在平生
 弟信んを以て妻に睦愛を業に給は百姓勤中
 少月お礼書に政に五年二月初子造りて

目人願分

地村取田申村に

外田町

百姓に為る

彦松

尚巳六十歳

持言

右彦松親に有候事と書言ふ御温志に如
 彦松少壯に精攻し給ふ親に如く御温志に
 申付り候御事由給ひ候事と書言ふ御温志

中ノ事又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ

目人願分

陸神郡赤津村南畑

百石御所領家
孫

持言七斗條

尚已口十歳

右ノ事又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ
是ノ如ク又ハ昔ノ山鹿ノ事ニシテ

お勤御方主人の御事お仕旦自らの御座り候
波一おの死に九の波に河五個祀母五波に好
一月おの夜免名りとの御事お仕旦自らの御座り候
んを五波に河五個祀母五波に好

日人願分

性科歌牧因村

石能林記書房

持三郎伊斗吉

名

尚巳六十九歳

右の主人の御事お仕旦自らの御座り候
波一おの死に九の波に河五個祀母五波に好
一月おの夜免名りとの御事お仕旦自らの御座り候
んを五波に河五個祀母五波に好

日人願分

性科歌牧因村

石能林記書房

持三郎伊斗吉

名

尚巳五十七歳

右九条元來有夢遊之云云其孝節之說久矣

其妻亦不及其友之孝也其子亦不肖也

今抱病一旬八日其病之狀發難治之事友

曰云々其方不使急少云云其比其妻云耕種之事

其後九条侯先子也山極云其病也九日城下町

持運云云其價云云其父云其子以酒好友持運

度毎少く其病云々其病者有云々其病者有云々

働少く其病云々其病者有云々其病者有云々

其病者有云々其病者有云々其病者有云々

其病者有云々其病者有云々其病者有云々

其病者有云々其病者有云々其病者有云々

其病者有云々其病者有云々其病者有云々

其病者有云々其病者有云々其病者有云々

其病者有云々其病者有云々其病者有云々

右程花言万有真新口片々々波世并極意出精
波一極門睡安極字真之考と進の鏡尚と之坐
水邊在素物極極おやういお紀事わ元酉年
二月極子きくこ

田人願合

地科取ある事付の

新の安
百

榮たわ

乙巳六十七歳

持言云々

右程花言万有真新口片々々波世并極意出精
波一極門睡安極字真之考と進の鏡尚と之坐
水邊在素物極極おやういお紀事わ元酉年
二月極子きくこ
波一極門睡安極字真之考と進の鏡尚と之坐
水邊在素物極極おやういお紀事わ元酉年
二月極子きくこ
波一極門睡安極字真之考と進の鏡尚と之坐
水邊在素物極極おやういお紀事わ元酉年
二月極子きくこ

りしを八九町も隔りながら有る所なり
二日ほど毎の内七日毎に横垣の向ふに
此所をまわす所なり毎段に水盤ありて
流しに水をまよす所なり水盤ありて
う改とて所なり毎段に水盤ありて
う改とて所なり毎段に水盤ありて
中より中より中より中より中より
五段たより一町に隔りてありて
夕陽未だ照らす給へば格直向ふ
河に流るる所なり毎段に水盤ありて
乞ふるも母より給へば一町に隔りて
給へば母より給へば一町に隔りて
給へば母より給へば一町に隔りて
宿を母より給へば一町に隔りて

夕服之長袍は女御の常衣と一層向の使ありと
しるも折々宿の衣を穿て居る中河の衣
ありて自日毎に一布衣を穿て居るに似たり
後一は女御の衣を穿て居る中河の衣と似たり
今迄衣履の類は毎々侍従中より取替は
り申す如く此服は女御の衣履の類は毎々侍
従文化之書に七月物とありたり

右之衣は女御の衣履の類は毎々侍従中より
介抱ありて女御の衣履の類は毎々侍従中
御列の侍従者も其の衣履の類は毎々侍従中
小高木様を出一束の衣履の類は毎々侍従中
殿上は女御の衣履の類は毎々侍従中
御列の侍従者も其の衣履の類は毎々侍従中
女御の衣履の類は毎々侍従中

元より業多し（正）母より中絶する人絶す自中
す（下）根の中より中絶する人絶す自中
中より及絶母厚絶し出の向く事多し
ふ事及絶母厚絶し出の向く事多し
為絶母文化正業年三月絶す事多し

目人願合

姓科松代城守

目人願合

姓科松代城守

百姓八女房

持事多し

千七

苗巳四十八歳

右六八女母絶す（正）卯上絶す如王家
之身多し（正）八女絶す如王家
懐妊する事多し（正）八女絶す如王家

紙頭中... 離別... 泣... 念... 夫... 大... 之... 文... 八月... 日... 業... 文... 八月... 物... 文...

目人... 分

水内... 市村

持... 三石... 年... 名... 女...

茂... 女... 年... 十... 日... 歲

志... 女... 年... 十... 日... 歲

尚... 巳... 日... 十... 日... 歲

右... 氏... 夫... 婦... 之... 名... 乃... 其... 正... 出... 之... 氏... 村... 之... 名...

居尾受之... 年八... 月... 仲人... 重改... 中... 中... 家... 十九... 母... 余... 後... 老... 子... 子...

心と感し杉母を以て未だ一を為し澤と云ふ
孝の志も也余村にも存念奇特と云ふお礼老母
生涯の日の徳也文化記云く二月五日卒と相子云々

日人啓合

水内郡下徳村

持言石原

徳之清

尚已六十日歳

石原之末七十九年お母は母身中より妹を以て

海を以て如十年経ると云ふ一年遠くありたお母の

母は慈悲の念ありて盲目なるお母の及自然の経意

ありて及流る母の執り降る中程迄を母を毎朝

に養ふよりいふことありて又母の良き日相成介抱

折く石臼杯換り中程迄はお母の執り及母

中程迄は油高書改しお母の良き日相成介抱

母の改りせりお母の良き日相成介抱

自傳のその中人を言ふは母魔の衣被の切き
所ははぎの袂ありて梅は是の苦の盲目と波と
多る人言ふははぎの盲目と列の魔とすといふ
氣は疎うの中ははぎの梅ははぎの母とすとい
若しははぎの梅ははぎの母とすといふははぎ
梅ははぎの梅ははぎの母とすといふははぎ
波ははぎの梅ははぎの母とすといふははぎ

人柄も主耕他は精改一隣村と梅ははぎの
若しははぎの梅ははぎの母とすといふははぎ

目人願分

地科教寺尾村

百段平治第廿九号

梅ははぎ

梅ははぎ

乙酉己二十六歳

右は乙酉己二十六歳

申年留平之所梅ははぎ

熱心な水戸・後進人官陣におかれ、その中、自ら
之種を育て、その功を月介抱致し、年三帛、尚、計六
八十、年余、如、存、七、十、歳、余、之、中、年三帛、介、抱、来
出、生、物、多、く、有、り、夫、娘、之、始、業、業、和、友、物、多、く、有、り、自、然、と
別、物、之、多、く、有、り、其、紀、の、唐、書、文、化、之、意、年三帛、月、相、子
と、云、ふ

目人願合

埴科郡赤十字尾村

百廿
勇 茂

持言石匠

尚己六十歳

右勇茂は、水戸藩主老母上、孝公、之、一、子、也、
尚、物、之、多、く、有、り、其、紀、文、化、之、意、年三帛、月、相、子、と、云、ふ

目人願合

更級郡山田村

之儀親中... 二十七年... 三月... 水田... 田人... 持... 尚巴... 石...

田人... 水田... 田人... 水田...

水田... 田人... 水田... 田人...

田人... 水田... 田人... 水田...

水田... 田人... 水田... 田人...

田人... 水田... 田人... 水田...

持... 田人... 水田... 田人...

右... 水田... 田人... 水田... 田人... 水田... 田人...

母之申不肖中修之及及如房之去卯之也
之知尚又悔事如母之業之申及子連
波歌家尚時知年之子信或人柳之持言之
不自申書之申事方印之管之抄所書物
去之申也元乃唐皇父文化之元年十二月相子
去之

日人願合

更級歌田之只村

持言七石六斗五合

民派

百能如忠子

苗已十八歲

右之志以是年耕種如能改之親之教何之
之申之申之日申書物未好之申書物未好之申
之申書物未好之申書物未好之申書物未好之申
之申書物未好之申書物未好之申書物未好之申
之申書物未好之申書物未好之申書物未好之申
之申書物未好之申書物未好之申書物未好之申

旧人願合

更級部力石村

持言石九斗八升

尚巳五十六歳

旧人願合

同部力石村

持言石九斗

尚巳五十七歳

旧人願合

水内郡山穂村

持言石九斗

尚巳三十七歳

旧人願合

更級部細掛村

持言石九斗

尚巳六十一歳

旧人願合

文化之堂十二月念子書

日人願分

水内郡竹井村分郷

夏和村

持言古石之系余

洋流古

尚巴四十一歲

右洋流古乃後於材方以言志之康乃之切也

宮山系之上也一和勝愛之流乃之成者之此斗奇物

之書月文化之堂年十二月念子書

日人願分

高井郡仁礼村

名之

清之

持言古石之年八念八夕

尚巴五十三歲

右之志親流系之川濱材取也勤之報立

材乃也此亦百好述一和波一也及材方

右の物々お紀文化三宮年十二月に發見す
考へん

目人願合

水内郡下平井村

持言は拾云石余

百軒
物々

苗巳六十四歳

右の物々お紀文化三宮年十二月に發見す

百軒多し其の混雜及困窮も亦村言も混雜也

今も川原未之にお行も其の古く申候も亦

一初有物も其の類も亦其の古く申候も亦

農業も亦其の類も亦其の古く申候も亦

お紀文化三宮年十二月に發見す

目人願合

水内郡新所村

持言は拾云石余

百軒
物々

苗巳六十六歳

右とあるは、この山崎の、その年、牛村、改、改、改、改、
宜、後、勤、之、の、白、言、小、百、姓、之、也、後、改、之、也、牛、
夫、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、
之、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、
之、の、多、入、也、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、
也、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、
小、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、
也、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、
村、之、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、
場、所、有、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、
之、入、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、
文、化、之、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、
之、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、改、

目人改分

更級郡目録

百廿五卷

卷之四

丙巳二十一歲

持三指三石守平九平五合多

右之志乃之親也孝公之年志乃の末家業

公之志乃の身實ら文化に卯年親告告也

之儀乃の身實ら中身實ら長志乃の末家業

夜乃の身實ら志乃の儀乃の末家業

八海乃の身實ら志乃の儀乃の末家業

後乃の身實ら志乃の儀乃の末家業

長乃の身實ら志乃の儀乃の末家業

持乃の身實ら志乃の儀乃の末家業

親乃の身實ら志乃の儀乃の末家業

取乃の身實ら志乃の儀乃の末家業

中乃の身實ら志乃の儀乃の末家業

又たる娘

者ん

尚已六十二歳

右又たるの居年九十一歳おれ同人の男子を
 先子に傳せし中も老るんは解き良き子に
 後日向遊歴る近年に門首より此後急出奔
 波したるは朱利も銀部も言ふは此れ存難
 之たもあんな女子三人も言ふは何事も一
 言に給ふ言ふ老父の言は門首より及んば
 信は事少くは度日毎に極く漸く日と言ふを
 甚しは産ふも言ふは度日毎に極く漸く日と
 極く産ふも言ふは度日毎に極く漸く日と
 申すも言ふは度日毎に極く漸く日と
 内八分論隣町也も言ふは度日毎に極く
 三月相も言ふは度日毎に極く

目人願合

水内郡新田村分郷

里徳前村

百姓惣八名

勘 花

持言七年亥金六夕

尚巳二十八歳

右勘花親會官新志之如勘花親會之如之如

新極宜口之十年以新之母病之官解不給

了可吐逆段一程程之病之官解は之流海河

新極宜口之官解治り宜之日之官解毎之忘慢

海河極着病は中村方上對之之流海河

宜自或志之村之之皆極長之也極考之

新特之之月五紀文化之屋年之月初子之

目人願合

更級郡大明村

百姓

勘 花

持言三年石余

尚巳六十歳

右之者乃其存公為僧人等之定其斗方等物
之類意所之亦多其其如弘文社五石之月
石字應之並之其故分南字等刀其及先南字
字類之與之如也其其其

目人願分

同類書本名阿村

持言七種之石版

七種

南巳二十九歲

右之者乃其存公為僧人等之定其斗方等物
之類意所之亦多其其如弘文社五石之月
石字應之並之其故分南字等刀其及先南字
字類之與之如也其其其

目人願分

水田類新所村

持言七種之石版

七種

南巳二十九歲

右之者乃其存公為僧人等之定其斗方等物
之類意所之亦多其其如弘文社五石之月
石字應之並之其故分南字等刀其及先南字
字類之與之如也其其其

盲孫老妻之淑友是又姑日能介抱仕志印子
病死後一以古年及句之叙而親者未納之也
孫也也死後連之生念後朝夕者死能の云を
隣り也之文也事相仕万得者物之志年相叙
相摩也又文化去己年三月初子まうらん

同人 順介

住村 越西 綿村

百股助之在館

之川

持言武斗の中も之人

苗已二十八歳

右之川年高者之親者之牛合負居新し
之者之者之親者之扶助一季の事之追年お勤
心之給合と之親之扶助一之親實負お
勤之及主人之心之親之親之親之親之親之
親之方之送了御之給物也之海家也世之坊

日印之縁方百好お勤女子は身立人となり
未娘きよ初年之内清く坐お果女房を侍育
波し淑淑世當らぬ子供せしむるは一重あま
お波の身立人二女之女に嫁せしむるは
事二一御ふ具しし人並に御お勤女房
お身立人の身立人にて侍を仕し
ゆへに母に依りて老老お勤女房元江門の御
日印之縁方一は女きよ初年之内清く坐
お勤女房の身立人にて侍を仕し
御お勤女房の身立人にて侍を仕し
御お勤女房の身立人にて侍を仕し
御お勤女房の身立人にて侍を仕し
御お勤女房の身立人にて侍を仕し
御お勤女房の身立人にて侍を仕し
御お勤女房の身立人にて侍を仕し
御お勤女房の身立人にて侍を仕し
御お勤女房の身立人にて侍を仕し
御お勤女房の身立人にて侍を仕し

遺一母親と大印をいふこととす
藤末の母は勤母也志意深増師より病身
之より女子老のいふは月十一午年以前首を
川邊日浦福の母と告げ居るを七十午日
中病の女とて西眼直流母申八九十歳おれ
右病の母は川と至る層物終末好く西夏は因ハ
左の母は西暦法に依りて日二夜死に成下
亦と程をきし村方出りお誠實細心終り
あつて精進をすといふに扱との物事とす
お母二便不整くおれは清き事とす厭如を
介抱汝しお親おれは身老のいふに様は
唯母とち切らるる事収帯とるお解る事と
ふ難くお母の病と膝を及右母のいふ月申死
後し主人のいふお親おれは清き事とす

六十年之月の... 梅...

目人... 分

坪科... 分郷

久村

百... 子

陳... 所

持言... 公...

尚已十六歲

右... 未... 梅...

... 八月...

... 梅...

... 梅...

... 梅...

... 梅...

... 梅...

... 梅...

... 梅...

志實祐之提進いふ及中村定宗之遺言
おと耕作出精政一為之給約束一公掛右銀金
限り古事下吳海ヶ百及及之世之金粒母之
奇物或銀金之隣村之にお知辰お守り文化
六巳年三月名月也

目人願分

水内郡新町村

目人願分

水内郡妻科村分郷

後町村
百軒

5之条

持言事斗之末日

尚巳六十二歳

右之志の親助者乃十三年生中風お故仍歩ふ
お付之志之母親を十おケ之由中風お故仍歩ふ
お付之志之親助者乃十三年生中風お故仍歩ふ

合解未包信仕河おもふくすくわ給一様親
惣之常儀を奉六十余歳お成り給ふお意く
者ら田畑おも一向不持仕給儀と云ふ所
ゆへ亦梅とゆふ控通申一とおも福と膝安
出精改しり及去ん其の田畑おも買入改し
と降しりのお及知し此中唱と文文化さ
年二月御子と云ふ

目人取分

水田於新町村

持言お申す

百廿
と云ふ書

南巳六十六歳

右之志乃くは改定しに材役人中お申す
お尋す如御申向とお意と云ふ下男お後
仕ひお儀お申控通お申改定所用向お切
平日用給又も材役と信するは未居村

汲え下村重く人々中編りては採夜毎自身
其れも方印にお勤をせ村方へ志を託し
右編りて夜分又も雨天に候はれ人々
一まじりて中へ中へ中へ中へ中へ中へ
是れも方一筆略りて遠くへ中へ中へ中へ
右も中へ中へ中へ中へ中へ中へ中へ
右も中へ中へ中へ中へ中へ中へ中へ
右も中へ中へ中へ中へ中へ中へ中へ

日人飲命

更級郡日名村

百代惣持

持言七斗

持言

尚巳二十六歳

右も中へ中へ中へ中へ中へ中へ中へ
右も中へ中へ中へ中へ中へ中へ中へ
右も中へ中へ中へ中へ中へ中へ中へ
右も中へ中へ中へ中へ中へ中へ中へ
右も中へ中へ中へ中へ中へ中へ中へ

兼の信物取の旨をいふ事ありて其の業をいふ事ありて
出精の良文とまじりて難難と後世に及ぶ事あり
為る者ありていふ事ありて其の業をいふ事あり
之中唱りていふ事ありて其の業をいふ事あり

目人願命
更級歌目付
安あし
百段の歌目付

持言文名をいふ事あり

南巴二十一歳

目人願命
目歌目付
龍志乃
百段

持言文名をいふ事あり

南巴二十六歳

右あしをいふ事ありて其の業をいふ事あり
あしをいふ事ありて其の業をいふ事あり
文化元年二月名目歌目付

目人願分

更級郡名村

持言石名武斗九年申合

能太乃

苗巳日十歳

右能太乃持言石名武斗九年申合
お願分申看病おはせし切極程
瘡有あはせし切極程お早死存忠
毎般書取佛前お普記施明おと備養元
唯今之由除未改し之直每般書取極
乞を乞はるゝお業お精改し之直
隣家之由海村申當おはるゝお早死存忠
文化六己年三月初めおはるゝ

目人願分

水内郡滋賀村

百世法皇御女房

持言三斗余

物み

苗巳日十三歳

持る二年版

水内郡瀬戸村

百姓 子太夫

苗己二十九歳

右之親主方ハ十思歳母ハ同年方前ハ
お慈之百粒口方ハ如病方お耕作水業ハ
以命之方之取用方ハ大勢之方及以方
才上お喜當付持之御之定之勉之方ハ

子之方ハ耕作之方日備細之方ハ持之
信之方ハ此物粒之方ハ漸之方ハ目之方ハ
酒好之方ハ方ハ死目之方ハ此之方ハ
衣之方ハ太之方ハ取之方ハ此之方ハ
之方ハ此之方ハ自之方ハ及古之方ハ入之方ハ
之方ハ此之方ハ母之方ハ此之方ハ及
母之方ハ此之方ハ此之方ハ此之方ハ

つたう和徳源と権とも山波の口膝交を
その子よりあとも入る候中一は由候も親
子自中あはけと妻お入る候親兄弟も自中
多てお成し申指候は唯も親今抱兄弟も自中
おむを村中休日保も親も申居るも存候と
こゝへ辰隣家隣村と志しお帰すお礼お存候
文化六年己未二月相のり

同人願分

更級郡山田村

百廿 助 ちり

尚巳は十七歳

廿五 ちり よ

尚巳は二十五歳

持る

右助乃ちまは入歳ちり八十二歳と申
以持病より年々衰お候昔は毎二十歳に

福子あきく

目人願合

更級歌新出村

百姓

行立清

持言石八斗四升

尚已三十一歳

目人願合

博科歌新出村

百姓

若八

持言石八斗四升

尚已四十六歳

目人願合

更級歌新出村

百姓

武吉

持言石八斗四升

尚已四十七歳

目人願合

更級歌新出村

百姓

若年左

持言石八斗四升

尚已四十九歳

目人願合

目取川合村

百廿

津江亭

持言七年六月

尚巳六十二歳

右の人... 親友... 物... 申元文化... 己未年三月... 尚自去...

目人願合

更級... 福... 付

百廿申...

新... 結

持言八年六月

尚巳六十二歳

如... 房... ち... 氏

尚巳六十二歳

右... 持... 申元文化... 己未年三月... 尚自去...

新嘉坡史歸之為實負正路之のち親中
何事之の候お前月より平の食料未の腹之痛
お終ひ候を酒好の許る及日之夜死の候
老父中傷の由因之をわらわあ中より候
及たま帰らる家内之を候中令を致す日之
お後由のやうに女抱致し孝親と云ふお礼の意
文化三年正月史歸之を初め今よりまゝ

目人願分

水内郡鬼首村町廻

百歳老母女房

由 幸

持言三石

尚已三十七歳

右之史歸十七年以前口付お新念記お娘中以来
お親お母孝親と云ふ一男八十のころお病起仕
姑候六ヶ年以來中風よりお歩一向お歩し如き

右印より扱まされし御持言より元と正人負合形友
今日一書一人遺言し母と今抱あはれし御言
女房一人の始末と云はるは母好合はれおはせ
日一書一人の業と云はるは母好合はれおはせ
知を母に去り卯八月中病死仕はりて今書年表
るく一版おはせし書と云はるは母好合はれおはせ
正印におはせし書と云はるは母好合はれおはせ

目人願合

更級郡二柳村

持言八斗版

百能
久太郎

南巳三十八歳

女房
く海

南巳三十二歳

右久太郎十二ヶ年仙米上田吹口郡是田村也

毎年此子年より知親海より持言御言借り入金

多々不負其新之と酒好者前存言一若月
如房之程にお流るとある古午未あるは村
一季もとてお流るといふ親技師並酒おとわ流
如房の如くは十々年前申年分親老無病
身にお成りおとて自中申年分親老無病
川は百粒お流親技師流し居る如流おとて
おとて申年分何事お流酒お流の流るおと
お流おとてお流おとてお流おとてお流
申にお流お流お流お流お流お流お流
其にお流お流お流お流お流お流お流
お流お流お流お流お流お流お流
申にお流お流お流お流お流お流お流
お流お流お流お流お流お流お流
お流お流お流お流お流お流お流
お流お流お流お流お流お流お流

波一百姓お勤く振舞て敷州政ら及自如と
村方お清少分たうとも因縁を中一争お
すくく大山百姓を一つおとす由是又年々言と
山前の方遊遊との物も地を遊まし流し五箇
又まがくお人合方お波一言の山前をお持地山
年貞五門おも居村地村を流福に斗隣村
この山前遊言上は流しおもあゆお流物お
はる月隣村に名をたて厚志と名と書おはるは
村中人お勤くお祝文化去と年三月に流し
まら

田人願分

水内郡布野村

持言お名お斗

庄八

萬巳六十三歳

右と名お勤く言と後石原お持地敷言

女房とてこの前病死は南河津奉書より
申す悔書なきらるハ以之召交候へ世法は
志より母中より悔書申すも事無き事
とのより申す子法より候へ候中より
とて急落申す事申す候へ候中より
候へ候中より用之申す母候へ候中より
十二年以前に病死候へ候中より
用之申す中より如右候へ候中より
とて候末は河津申す事申す母中より
とて候中より申す事申す候へ候中より
とて候中より申す事申す候へ候中より
とて候中より申す事申す候へ候中より

日人願合

更級郡高田村

百能

持言石石候

治之序

南巳日十一歳

右治之齊母汝去廿〇六十九年三月病死法
家因大勞之志願發並方考之卒免法之齊
正重及之一村之汝之由及中一陸村之也
り之也之文教明老重は八十一歳に於て
之也之也之也之也之也之也之也之也
味之由治之入之也之也之也之也之也
毎夜之也之也之也之也之也之也之也
少之也之也之也之也之也之也之也
出之也之也之也之也之也之也之也
去之也之也之也之也之也之也之也
如月之也之也之也之也之也之也之也

日人願合

水田新河村分郷

里穂前村
白波之也之也之也之也之也之也之也

持之也之也之也之也之也之也之也

祢

尚已三十歳

右久の事并代山前と志る柳と云ふ所代一延保
そのと處同人女房ハ先主と病死仕書及云
ハケ来と云病死改一久中代七十五歳と云
耕仕由来と云人負宿と云太い福と日備務
後日播と一凌也江大と云実と云。凌急知
子と云一四代と云母と云金代地村婦と云方一季
と云と云江代と云江代と云江代と云江代と云
江代と云江代と云江代と云江代と云江代と云
年三月相子と云と云

目人照合

佐科級車津村

百廿要助後取

持言と云石と云年八合

し

苗巳又十六歳

右と云史要助二十日奉以兼病死仕書
源和九六ヶ年以云長畑と云死去仕書
源和九六ヶ年以云長畑と云死去仕書

持言ち申はも御合

百廿五の御家

十一上

南二二十七歳

右之者姑とある言一少く姑は當年七十

七の事と云成る言つ実母のたふ言ちつは是れ

別筆波一と云は母の好中言ちつ言一と云は

言ちつ死云一後姑中一と云は言ちつは是れ

少少と云お言一知一と云は言ちつは是れ

お言ちつは是れ言ちつは是れ言ちつは是れ

あ親と云抱波一けち言ちつは是れ言ちつは是れ

少く言ちつは是れ言ちつは是れ言ちつは是れ

不存ハ毛波一と云は言ちつは是れ言ちつは是れ

姑と云切波一と云は言ちつは是れ言ちつは是れ

不存ハ姑と云言ちつは是れ言ちつは是れ言ちつは是れ

不存ハ言ちつは是れ言ちつは是れ言ちつは是れ

少頃、其居業、少頃、以、お、励、ま、及、申、し、川、原、に
お、行、き、終、り、之、水、を、受、と、求、り、使、母、親、延、滞、し、候
多、幸、苦、勞、付、り、ま、し、少、頃、を、一、人、前、に、百、餘、に
お、申、し、流、母、親、を、安、ん、じ、お、仕、合、息、新、に、病、に、お、申、し
子、供、に、大、勢、以、て、た、り、候、母、に、ま、り、申、し、自、由、に、お、仕
ま、さ、し、た、り、万、分、御、實、自、り、し、年、に、一、の、真、人、取、り、お
皆、應、は、者、の、心、を、物、に、申、し、申、し、在、記、文、化、に、お、申、し、年
二、月、初、の、ま、り、し、し

目人願合

高井野村

持三六拾石、御、申、上、候、事、候、御、申、上、候、事

付七

高巳七十六歳

右、得、七、少、頃、不、口、於、村、山、村、在、年、以、親、終、り、
酒、造、南、原、を、持、り、右、仕、入、金、付、七、少、頃、を、一、人、前、に、
申、上、し、申、上、し、候、事、候、御、申、上、候、事、候、御、申、上、候、事

海防の務に未だ一付七擧毛火を以てす
且つ之れを初海防と爲すは其の意高貴
也故に海防は是る事也と云ふは其の意高貴
也世に海防と云ふは其の意高貴也
其の文化は己年之月廣く其の意高貴也

日人陳令
更級郡田口村

敬啟者

小林多門

萬巳六十二歳

右多門は其の意高貴也其の意高貴也
病人を以て其の意高貴也其の意高貴也
其の意高貴也其の意高貴也其の意高貴也
一村の意高貴也其の意高貴也其の意高貴也
其の意高貴也其の意高貴也其の意高貴也

心をもつて志を成さんと欲して一礼申す
今も子安徳に成る祥止成らぬの心をもつて
之を成す門中にも家も事務も成す事ありと
之を成す門中にも家も事務も成す事ありと
世に成す事ありと子孫に代り成す事ありと
之を成す門中にも家も事務も成す事ありと
之を成す門中にも家も事務も成す事ありと
之を成す門中にも家も事務も成す事ありと
之を成す門中にも家も事務も成す事ありと

右之通沙度作以

文徳己巳年三月

真田源三郎家来
冷木源三郎

信濃國松本領分在町奉行書持者云云茶書

真田彈正忠家來

石川新八

真田彈正忠順分

陸科郡

松代城下鎮屋町

辰藏

當未三十二歲

右辰藏由親也所出處勝子向甚難浩等
一日之營茂樹之送法立又右助儀去七十一歲
正歲一由年以家方出入屋浦口以相雇

張載居山也屬母後茂七十一歲正成老妻之上
元身甚病牙也庶以七八年以前方服不
自由言步行或相或兼得也與和氣及中
中少得者尚人全之方也也也引或者
脊負子或母之任也也處從去二月中
眼一向相見不中其上去夏中痢病症
相煩也便等自由成意也也也也也
或着病不淨之洗濯也也也也也也
人之目也也也也也也也也也也也也
之也也也也也也也也也也也也也也也
度之腰湯也也也也也也也也也也也也
取扱食餌等也也也也也也也也也也也也
好也也也也也也也也也也也也也也也
附添吞也也也也也也也也也也也也也也
為給也也也也也也也也也也也也也也也
日雇也也也也也也也也也也也也也也也

能之相親並用事相達先方之何之哉
貫以食物等之米等之必給持系往母之為給
右之准若始元斗甚孝人之趣相軍以符
相乳為獲其當未年口丹初子造之也

同人領分

地科郡

松代城下源治町

新助後家舞臺子

志七

當未六十二歲

右志七生得愚昧之理害之相分者之
也座也均其對其母人無之宜道一
如何極之極成之中心事不依何義
何申系以養母八十餘歲其成之處
二十箇年來其病牙之成步行不自由之

胡嘗為德始末追女房之必裁自牙之發
人抱其外喜提新并台光寺之堂系
仕貧賤者母中少以得者脊負以之
右准美事嘉七元扱活切之仕也
殊之外欽諸人上義也其土貧窮
少也下惡也庶以母折之令之食物亦
女房之身之老吏上遠也故母之難仁好
嘉七取女房口中含之也
如何松内院難法之義可成文任好夜間
何事發不肯松之我後女房上墨之見
等加一以後法入及見守誠穉也との
賞與仕の右新の無官者公を畫一
お乳苗末年四月為獲與細子世之

同人願分

陸科郡

松代城下緋屋町

孝八娘

三子

當未年十一歲

右子三勝子向來意言為親老妻仕
 子久不辭儀入堂年以弟方家穢為務古
 江戸表口庄越居父孝八娘八十余歲居處
 步行不自由此度母娘七十五四半
 子如出處三箇年以弟方眼病古煩一向
 相見不中此分三子孝人こ小作每
 業亦三漸為親老扶助仕甚艱難こ
 暮上得芸為親老老難温之新為相尋
 不中食為未得資亦見之此第去
 半連用為給其上母依老眼見之常以骨
 為便為其越此度之是若其之伸以階深

須分は親寢法は得た物更進し夢も仕
事由親の自由を松おん掛は後
隣家共外進言との未見は言は
由親を懐こち常く事結存しを
我分抱是の報お世殊之外怡中由事
活切に礼扱孝しく越お礼を獲い
當未年四月朔子遣之

同人願分

更級郡治坂村

又今年以茶病死

百姓

清右衛門

持高又拾貳石壹斗壹升

六十七歳

右之者生質甚篤實と耕作出務仕
平日質素衣一と掛危人、習り
取中其教の由座の小茶なりと内分

甚福祐也。此座以得芸家作其外。其甚
手神仕御之。亦与後買。調度。其志同部
八幡村。与市。之。时。分。子。作。野。菜。類
籠。入。持。示。賣。以。調。物。仕。役。之。後。之。並
之。之。松。之。子。指。常。之。口。癖。之。後。願。主。与。神。佛
母。也。雖。有。事。去。之。也。座。以。得。芸。家。平。日。繪。約
也。仕。以。後。願。主。神。佛。之。入。用。之。去。柳。合。銀
惜。之。中。与。中。指。以。也。客。之。人。或。之。一
願。主。不。成。之。用。合。未。中。有。有。之。良。之。由。也
困。金。之。熱。右。合。子。之。也。河。松。之。陰。入。用
也。座。以。芸。家。之。也。放。中。之。乃。芸。家。神。佛。也。
能。之。中。合。之。並。以。由。右。之。外。之。後。致。之
也。特。之。織。也。座。以。也。身。之。享。和。二。成。年
獲。其。之。亦。甚。厚。應。也。中。以。神。儀。也
父。之。氣。性。法。也。也。之。寫。實。之。耕。作。也
出。給。也。也。其。也。之。當。也。也。仕。也。敬。相。聞。也。也。

同人願分

陸科郡西條村

百姓

右左邊

持高云云

當未二十二歲

右左邊親幸右邊十八歲延成
 己酉年以來中風之症古煩越牙不自由
 以步不相付有左右左邊才為人
 也府の家内故合人等貧窮のため
 法交し受しん子宜家内膝交耕作山稼
 渡世出務仕親幸右邊十日期善防流
 介抱氣候、為仕人食解等似何事
 中兼て不肯元来酒好、也府の身
 難混之中、常々調直日、好次
 為給貧窮、不厭孝んて、一
 隣家去、及中郷中孝んて、
 相唱、各村、及人中、出、相、亂、當、未、年

七月の喪次細子遺之

同人願分

水内郡千田村

百姓八郎右邊娘

持高武中六并餘

也

當未四十八歳

右も也親八郎右邊二十箇年以前病死仕

老母八十一歳年法成資是人也府比當是又

尚又月中病死仕は親病死以後母之

才元せり難少くは裁弟病死後去

海以大切之貴之月仕事老母之

しと隨人食解去勿備存教等追義

教ら存しお付は松ら掛間く之を賣

布未又老債仕事より後世仕甚貧窮

之の心府は憐れ母大切る已孝道を

白を以て隣家去不及中隣郷追義

孝行そのとお唱合相礼當未年
七月内獲火細子老之

同人願分

水内郡三輪村

持高九拾石

百姓

長左衛門

當未六十二歳

右長左衛門家内八人嘗に徳を以て蒙る
篤実故家内睦交村迄未相勤に長左
常之能下老左元扱過淫と一材帰伏
仕の身自然と締宜由其上孝人厚志と
七十六歳迄成山老母産山流好
日毎夕方と五人合と古き栄極之求と酒好給
由人志酒飲不好得共寛優におと
慰由長左衛門中孫右衛門儀名別宅
折と母石連右衛門方と糸足成候と右衛門

元斗山由長左邊門上由九月中申少山去
當年去申少山入湯山由申中
申交山中申少山由申秋作元收宛申
也度山得共紅中同國之申郡角間申
湯泉山石連入湯山由申又長左邊
石持之田地之申小作人申作之申以言
兼山小作人申貢石納之去申秋申申
申申申之申同元更別持申申申
元地之地之申之隣之申申申申申
小作申貢去申納申申小作人申申
善善山去申去申下男申申申申
申申密之申同申未申申申申申
有之小作人申申申申申申申申
申山由申申申申申申申申申申
申之申申之申申申申申申申申
何申申申申申申申申申申申申

之後者若如吳岳中一之字也府山
却与恨探与治く之候也相厭也右故也
村役人の相尋山も後風況程も中少也云
介村く之候長左邊の年申奉存ん爲実之
候者也沙治仕山付お礼等特之候身
尚未年十二月獲災之由也厚褒也申山

同人願分

埴科郡

松代城下馬場町

与七

當未廿九歳

同人女房

らく

當未二十七歳

右与七家内六人言也座山屬也物
又左様未更賣仕漸扶助仕山尚年

八十八歲正成以老母也庶以爲之大切仕
不時三人食解木色之好以爲去後事
お止相意之製爲給日之高向方菓子未
洞糸與一以由當正月中母之奉賀お祝
迎親去勿痛遠縁之去其外迎親壽候
お祝由右祝付母と新妻之之腹お祝
し子由婿去難混去故出出来事候
古物お祝由是也中祝キ分分奉賀
爲之候去之已量ヶ留安成相候し以候去
由子若之親之長壽之敬祝以去也好之
若別歳之也庶奇特之候与存候且又
由三月中普光寺如来園帳分奉給
仕交与由中母と脊負妹石連糸給仕由
右与七亡父在年中長之お煩常ニ砂糖
好由由身由息每日お祝少之宛爲給由由
父存生之内佛檀園交与お願居候也

貧窮故終身貧果病死仕右之旨
常之殘念之存追幸之旨漸七回忌
佛檀乳掛之文之志願相達候中にお願也
此所也

一 与七女房儀生質中未和之夫日每高又去
日雇之居出の由也之る後知少之子也之人也
抱居所々母と大切之介抱仕候故与七
出向之る後安堵仕候事也右女房前之
生得之者也府の由也中調法之の故也之
之業跡と商人之由悔まは願願の處
与七甚候難事其詮去之末迄に到り
中之由也嫁事不調法之由也得也是也
實情之由之介抱難忘の得也我亦死後
不調法之事有之由也致候也難縁不
不仕候由也遺之由也得也位候候中
之由也自分及接抄之旨中由也

女房儀示事之由止由右新孝人爲實之
その由新方は相雇ひぬ於向方
不便と加へ賃儀之外に裁別所何歟人入
仕由由に由座し

右由人之儀若居所之内若勿海濱町並
孝人若ら獲の事分お礼由未年
十二月由獲の欠細子遣之由

同人願分

水内郡小根村

百姓

治吉

持高本新田合共計七戸或各除

當未二十に歳

右治吉十箇年以新田村治を請り中との
方由若に新田中との方由若に子に治
由時家内の人等此座に由若父母

十三年山前古盲人... 難治之... 以木里教... 乞乞謝... 亦相安親... 有之... 每夜... 中... 以... 人... 尚未... 十二月... 尚未... 十二月... 尚未... 十二月...

同人願分

更級郡下市場村

百姓

要藏

當未二十三歲

持高武石條

右村若吉清与中との也座山屬十箇年
以若病死仕母并女房也座山右要荒依
若吉清与元斗縁若との田地未發一向
不持仕仕目切之小高号仕若吉如乳持人
也座山九箇年以若右若吉清名跡之
引越也座山若吉清後家依中との藝族上
生七大原村源五郎方ト若越也由
也座山若吉清母依若老之上引若自由也
正成要荒吏婦とののん子若大切仕

胡夕之食解志勿論也便注後九云跡若
元扱也中外也跡若跡物未世貴也得志
祖母之譽一不依何事祖母中一糸不若背
取扱也及甚相怡也右祖母儀若去年年
十二月中九十二歳との病死仕仕右跡扱
家内跡扱仕若村之若との勿論也村若
要荒若人貞実之趣若若若也若若若

相乳當未年十二月也獲其子
遺之也

同人願分

水内郡吉本村

七右邊 智年子

百姓

又乞請

持高本新田谷部石部合條

當未二十六歲

右乞請家内七人嘗有元氣甚弱
乞請之慶也又七右邊之慶當年七十八也
在成山又箇年以第方中風之症亦煩
立居一向不相叶也又乞請夫婦厚包至
由便未之乞請也投乞勿論也事方由由
又乞請知少乞請子有乞請之外方藥子等
乞請子有乞請子有乞請子有乞請子有
為給也由自又胡夕乞請食也木雜混也

此所出得者種之元更以廉版之所得者
混雜之極之極也其由言少而宜不
親之為給以極公之貧窮之中形之
御後不自由之由所為言以言中表以又
亦始以中右之准他人之義隨分別合宜
之強在由中亦少以符相亂當未年十二月
為獲其子者之由

同人願分

地科郡東條村

百姓

久左衛門

持高七斗餘

當未三十二歲

右久左衛門家内七人言言勝也白
將流也府以以小作山稼石脊負未
仕洲家内扶助仕以也親丹為後
七箇年以來寸白之症亦煩腰板平外

仕居比處大切。今抱仕比由久左馬儀
子共比人大未。知年之。小助未儀。仕
比上同人儀。病牙身去。年中分少之。宛
煙草賣買仕比。帆。貞實。老。故。未。販。未。儀
正。治。仕。比。由。右。之。沙。汰。取。信。將。老。之。煙。草
相。調。比。者。多。分。之。由。右。脚。故。一。村。到。合。睦。交
比。在。比。由。比。身。相。札。當。未。年。十。二。月
為。獲。美。細。子。遺。之。比。

同人願分

更級郡上平村

比左邊門地下

百姓要助子

持高幸斗八升餘

長松

當未二十八歲

右長松家内。人。嘗。言。貧。窮。身。他。村。
一。季。在。公。仕。比。在。比。江。元。身。貞。實。之。由
大。切。之。相。勸。給。金。比。家。内。披。助。仕。由。親。之

元叔宜親常之酒好身每日不怠少之宛
酒相調為給山由右神取村方到合其睦友
也所也派相少以身相乳當未年十二月
為獲其初子遺之也

同人願分

同郡同村

持高武石九平武外餘

百姓 三節治

北田未二十歲

右三節治元來貞實之村方到合睦友
家內五人嘗之也高年七十八年其如老母
也所也屬也眼不相見起外未大切之介抱仕
何事發母之中余柳發不相消也相少以身
相乳當未年十二月為獲其初子
也之也

同人願分

水内郡東和南村

大翁帳下

百姓太郎吉子

持高幸右幸斗幸升六合

勘又郎

當未二十歲

右太郎吉俊家内六人嘗る元十牛

貧富窮者之身子勘又郎并女子志の儀

一季身公之若出親右郎吉俊家元元

耕作未仕如屬少之酒好如博去可也意之

子若有人幸公縁之若出重酒給ゆる者

如何与好物之酒發給兼以中右と勘又郎

甚お悲見身若幸公之出居如博去別る

親之若勞發多年不好物之酒亦お用

惟る若病氣若發出可中何分心重

酒お用矣之張合出務仕是病中之幸公

向る若以給合若幸發發子元亦給重

皆由親之方は若き由は美之除儀多目
入用之儀若母方は美武拾日洞限り其更
其除若き後儀不其由は且又親在御吉
同村者九場つと中若方借用令有之
魁角返漸不得仕由屬勤不而儀
若左場つ方は三箇年お勤去年年去迄
お康院文茂其更親之茂安坊仕由
身中儀甚貞實におん子拾別之
左儀仕由方中一之至一人若左場稱其仕由
二十日不歳之年齡ころ多目入用之時
武拾日洞限り母は其由中は其更其更
お竹中は右身居村去勿御由村
孝ん厚奇特之のに在る由は其更其更
相乳當未年十二月内獲り其更其更
遺之由

右之通法府作以上

真田彈正忠家来

文化八未年十二月

石川新八

信濃國

考以貞節之者名首帳

小諸領口

牧野大藏家来

榎範藏

收野大藏録

信濃國津久那

小諸古町

百姓半云清子

忠次郎

當已口指七歳

持高武右武計是律口合

右忠次郎祖父友右忠門中者同領同郡
細谷村出仕白子清口人有之同男子武人

女子或人跡合家内六人暮惟妻在而
渡世出来兼入拾々年法亦家内一曰法
中可引絨中惟想領事云法中申者
甚孝心白親友右邊八拾六歲次小兒
同相成每日二二度宛妻脊有戸石連以
穢嫌代取孝以仕既親友右邊九拾歲
相果申儀右邊云法悍忠次郎中との

親此孝海と見習者公稀成者百親
申事何言哉不相肖平日親女事と極此の

無之且半云法酒法好惟得右忠次郎同國
小雛初上田市云之月日六度宛在酒と酒
持系しき一員民あり々為之酒法不絶格
取計半云法七拾歳白耕作茂居出達者
出度出前忠次郎法是法しき日苦方成事
手前与しき一樂茂お成惟法と為政般
孝養は神罰法大切相守禮儀正し

百姓清華更一歲宜實解白高堂之儀我
心盡一也一惟友年增無日相其中心事
身之在者十者省一也者武拾六年以所
病身之相成起臥或不自由也其忠也
伯父之事惟得之寢起食事大小便或不成
人年復月代武之湯以水等或飲入液世之
際不相成作公掛以孝公之者付

右之說可及人分許出後後之實見文七年
於後取此之上高堂長矣粗武後也

同國同郡

小諸与良所

百姓

高

七七
苗已五十歲

右之者亡之亦七年白酒上好惟付其難者
惟得去日之相調治了想想了之兩親
孝養長身之故惟於亦七年後公了之誠感

一御耕作等出情仕作如文八八拾歳分文比
之寛年十月亦日相果母之苗已八拾之歳
存命与在生如是凡始又取愛浮増考然
已一昨至秋今少可之以農業とも急り
而之出情しつゝ作付

右之候所没人今出公儀之寛政の七年
給及所紀之上為獲災粗武儀也

同國同形

菱野村
百姓

若右邊
當己の格九歳

女房
よりの

當己の格八歳

若右邊子

千歳

當己の格六歳

高拾七石之絆

高橋七右衛門之年之合

女房

于也

當己七拾七歲

當己七拾七歲

當己七拾七歲

當己七拾七歲

女房

心也

當己七拾七歲

當己七拾七歲

當己七拾七歲

當己七拾七歲

女房

物也

當己七拾七歲

當己七拾七歲

當己七拾七歲

當己七拾七歲

女房

心也

當己七拾七歲

當己七拾七歲

當己七拾七歲

當己七拾七歲

高橋七右衛門之年之合

女房

多之

當に宿屋蔵

當に宿屋蔵

當に宿屋蔵

當に宿屋蔵

女房

あや

當に宿屋蔵

右右忠門の二人右忠門末子ら家督

相續しとて思ふ人皆之先居り

右忠門の家

子向一皆就て思ふ人皆之の家督

之所住居波作海共一家内は如く又

右忠門の子孫と育一時兄弟中と相言候

通り睦友今にお言し右藏右忠門の兄

右忠門の義のこく一故い河事と右忠門

右忠門の子孫と門九所年かす取見と

して河事と右忠門と清之家内年中

不持嫌れとの有く自然と交は道
寸の之内門突の男女を相推す其の考
以者止所の令淺米穀之家一集の是
飯料其外雜用亦不自由をく長類等
其外家内同扱其準法いしし何の成
少月由れりありき言の所取計中惟由
田畑言の合表向の世甲乙極の各前は出

山福英嘉細書より出情いし

耕作の茂男女拾口人一集の湖漕と持る節
七拾口蔵の人の立若者一倍の働と設け
拾一人れとの我先のち精成り言よ及
作海の女の内を人食事振にお成り外
指一人の先の見作内を働と並の作人
向の後成るもち働とて又出情いし
海りし由の家れ食事と一軒の振る節

田の食事波中い右之通睦友お働了
作友又言右惠も高九石あり海之所持
之之豊當時とみ拾石之余成り合浪波不
自由なく相成り中い波海之ものと相殺
合浪米穀付附の意想の心源く憲く助
毎取取扱作及辺心る義基志一守之也
中獲い子信口人義之江附之通お守史婦

八代藩一日之書の者の上置候

右之領村役人出出い海之文化回中平年於
没而礼之上史之中獲作上言右海城奉始登
城中对言右節言右海之是近言右車家内
之知表百姓村役人治席中付候

日田日記

日村

百姓

在云

苗已口指候

音

右重吉儀之入重吉患病氣甚上老疾
見依右患ハ長病る有人在之復外在は
家内之人其甚貧難之志加飯料之日費
日或送りは御之難治作濟共自分取持之
賣代金亦此借未し一人上兼用
無所取給之義是之極極成之取扱病氣
因以此之耕作無新之出年と送り
非常事ハ人交者心ハ此也

右之儀被設入之出之海之官憲政十年年
於設所乳之上為獲受粗或儀也作

田圃同額

八幡村

百姓者之坐

女房

多
白己の控儀

言

右に子又者之坐儀也拾部年其の病死致

ぬらら子法はたはゆ中、替ある姑、孝節成
 是し、まゝ大の、卯年、四伴、高成、之、朱、質、
 難、正、た、い、ひ、と、身、ま、あ、り、し、合、事、成、
 替、ある、姑、と、成、を、け、兼、飯、錢、兩、山、傳、共、四、伴、
 事、及、不、及、口、進、る、事、さ、い、處、姑、も、と、志、と、威、
 於、初、の、嫁、入、し、節、を、替、の、姑、如、好、香、と、役、
 其、介、之、后、起、所、の、及、附、流、脚、義、心、の、遠、り、
 あり、波、た、池、の、と、耕、田、の、好、事、の、常、に、
 出、情、い、つ、親、類、隣、の、事、を、と、威、
 け、り、く、身、傳、を、い、定、に、自、節、孝、を、成、事、と、
 難、稀、ある、もの、に、は、た、は、
 右、に、飯、村、役、人、の、所、出、の、名、之、實、に、及、七、卯、年、
 於、及、所、乳、之、と、病、廢、所、粗、武、儀、を、候、

同國小縣郡
 大石村百村

持言七石の計六伴七合

四郎之儀
 尚色四拾九葉

此者貧難之申七拾有金之老母也年
昭前より暇年ととも石自由と老老致
作之知海若養勅命く食事我至飲
時とまのこに教度たよひ山居老母し
好酒の夜中支拂角き人例と致
花抱し海し誠孝心之軍に有之耕作
之ふ及精出作付

右之役村役人 古河志公 後見役 高年
於波所 乳上 高年 役人 粗 武 依 依

同國依久那

年取村

百村志老子

後藏

苗已口依之氣

持言武石武計七律九合

右者生海馬實ら初年之時より父母
心之隨ひ弟右子准し作爲元買家小

信海者衣食之者養心之計進是のこ
朝暮お歌を奏すに海を男子の自業不
あつたりのそ母中何れも人目と恥い
ゆるく又、近所田畑の所お親戚増と
伺自然の才とも是誠見貴家内も和熟
しと家業茂出情いそしめ

右之頃材没入の所出の塩之實没入辰年

給及所礼上高慶安大祖或後世後

同國反形

西名村

白村文正節子

持言八廿六律九合

与七

尚也年七歳

右之者貧窮及半季の甘公久く勤高障
こその耕作と所を今も老衰及びい素不酒と
わく宛好まらせ一日にお度宛石急進の母ハ
能好る病身には此業用湯治不銀越中

養生或加父母之中隨其易之方或
山所考のいさし

右之飯村役人海出の海に實政の當年
於彼所乳之上為養負粗武儀を儀

同國同郡

森山村
百姓

新田御

将のりつる年々

右之者若年之節も有親の心隨ひ同知
手入事は勿論功も農業より海出の役事
人れ手平とありし海出元身貧窮也
有親の衣食も孝養心も似れども是と欲
寒氣の節も其身の薄くして有親の心
せよか有親の心遠事なりともあり孝養
也

右之飯村役人海出作位し其後其年

於彼所乳之為養父粗武儀志い

同國同郡

浪沢村

百得後志車

女房

持言部石之汁武儀

ふん
苗已年十七

石更後志車丁前車一石以百生為るもの

思ひ親れ遠くとも遠親に似たり

機嫌と背に丈れ物後志車川新茶

身成骨一若実と云く作也

石之飯村役人下所出以依之實之及六宣奉

於彼所乳之為養父粗武儀志儀

同國同郡

山浦村

百姓志之坐子

持言の汁を伴武儀

六之郎
苗已十四歳

同人婦

法成

苗已十七歳

右に之師又も極極員窮者此の如
ハ今年以前申年又相果母の日領同部
美野村と果海附より親元茂極強
池轉回作お成能眉六ヶ年以前成年母
急病とお人前も相成作用勿論致

合事申し働成出来ぬ思はれ婦は成者此の
出—其の母と被せ之をいふに之は

お又ハ新舊近日申不自由之を在
是出日昔の定致—此の更ハ打取稼
も之を細とといふ—一日は昔も漸く
嘗之ヶ年以前より母ハ病氣増ハ高候
七八歳より耕作拙列出情—
急—たる農具と米の田畑耕—
物とて起て草刈川作お時今用意と致

秋もあつて手作の秋葉亦と新と資員て
小諸町にあつて少くは徳成はて農具並塩に
料とあり誠風雨と云ふ所お働さ給ふ
お成大切小巻の孝公自の實の付
右之辰村役人の許出の縁し文化に年
於て所乳とよ為律長災粗之儀をい

同國同歌

山馬村

又七

尚己の中四歳

又七

右之者源助の中との美公子の早妻源助
娘の由はたの又七儀養子の在哉の初め夫婦を
又源助心付の八十新成の成山成老老
いししは知夫婦の者居初成の附源
柳親の心よ遠事あり元来は親の心
長食の者養心よふけ毛のにお歌傳共

夫婦丸粒を丸粒波山後を孝成者付
右之辰村役人より所出の依り寛政六寅年
於役所札より為應負相武儀也

田園田部

道田村

百姓

の席を

苗已四拾七歳

持言九廿九拾七合

右の席を儀知年より所入とあるも病者
の如くは食事を止めざる事あり

振母も為食を多しし事あり
新母も心も随ひ波丸者食れり
耕作茂指身より右相也波出情作
道田村に依り中山道へ幡宿より右役
相勤山及取馬稼亦し全由り勤る親
とよ家業は所生得自ら成りあり
右之辰村役人より所出の依り寛政六寅年

於後所記之上為後長兵祖武儀並作

同國同郡

同村

百姓七車娘

持高を名九計八谷

尚也二十六歳

石のふま友志馬の儀を八ヶ年以て病死

いづ川續言丈此中も病死友志と相

云計るあは海たのふた武野の心思成
養育して豊七年のむとるくこいん

物著者孝事いとこく聊省事あく

緋小思成負て農業と一願い友男七年も

友志馬の歌を忘れ保の家業と没世情

いしのた後れ丈成迎はれと身寄る者

初のい海共男乃いふふ計時、初るふ者

あらふく又をたまは負成たていあり

一切軍入ふりい如北者い負成威は越は付

右之辰村役人、所出の依之文化二丑年於
辰所乳之上、為養育、粗或儀甚儀

同國同形

友澤村

百姓幸者

女房

ある
尚ほ早に歳

将言六石口計之并

右志の儀、曾忠の御支那、對し、情魂は、

申成、心は、其後、姑も、病死し、

そ、人、相成、儀、の、歳七拾、故、女、と、老人、の、別、白、

孝、の、と、是、の、一、ある、そ、人、の、心、を、至、り、い、は、も、

穢、儀、識、是、は、信、と、極、也、一、物、夕、れ、寒、苦、を、

ふ、れ、か、せ、食、物、も、少、く、急、に、中、減、ふ、あ、り、

相、中、に、歳、の、一、と、故、方、付、

右之辰村役人、所出の依之實政、寛政、寅年

於彼所礼之上為獲長須粗武儀志儀

同國同郡

同村

百姓忠之極

持言之汗武律之合

尚已口信之歲

石子ん儀男忠之極存命之角極難
之者有寒之礼之時分我身之舊忠之

西親成大切しんしん暑冬之とる後其尚
又食前無之辨しんしん儀共色之難難とふ所

孝以成之しんしん以得極難後衣食之記
心危近親連成目極難及助合我出来

新以忠身誠孝實之極付文化之高年於
後所為獲長須粗武儀遠之後男忠之極

病死しんしん始當已半米也成而六年
以方為眼清之盲人之在來列の難者

取扱方合其事小近哉極難何々也而為

ふしきき 昔も実作を出来ぬ酒造り
右に後村没人の訴出の儀之紀之と救とて
改手尚遺候

同國同類

至月所

百姓

常之

尚の

高

出者儀同國當攝省の如年と酒造り
能哉老母の孝公厚く為小養母と公
不肖貧窮の中養母と好める酒造
日くは進め母と我子に酒造好まると
心至あると母と酒造の價銭
渡金酒を貰ひたると計の儀揚と
進め日く酒造の馬代進めと資料と酒
残す母と酒と衣食の助とあり実家

相愈小堂の養家此貧苦と憂年を
貫つて居らんや或は貧福の満り
以事として肝心と憂事向く常と憂也
又此公の遺の曰く若實れは救世し
するものなり

右之段可設く下海出仕の文化曰年
於及所記として為歴長久粗事俵を作

同國小羅記

中九子村

百姓

佐助

南巳四十六歳

持言或石の汁七辨八名

い者如年より母小孝養食多く一辨
貞實よりして成長の道い貧窮及孝養
公小石但つれば愛年孝奉公よと云
分とい母の食の物とあり年孝の後

かしの古語誠高ひ乞くは酒とゆて
母は好む酒と曰くふ進め孝の爲高ひ誠
をすむ英傑と云ふんゆと只くとも是り
わふ又日用く母さるる事誠高ひて梅の實と
集めて十歳後をけむと波の言ひ是ふ
軍終ふ是て孝養のえとく二十余を
妻誠進ひ是とすまの心は情ひ若と先とて
農業と云ふは出情の付

右の故村故人の海に出い給く文化は御年
於波訓 此とくは履負相部信を水

田國信久那

娘は懐新田

百姓

文年

尚七指定

持高七石九斗三升六合

世者幼年時母親相果又親計ふ

相成作也又婦中合豆粉至油以之扱
平日酒飲好い夜日く再度茂勅めい海兵
を度之の事以給させ寒暑者之の別る分付
凌能極に取扱好善長食亦もい文河のり也
若し浅相とて耕作も身代入お働
忠事お企いもの一なる君入と加一村
情愛相成い存りやい趣

石之原村没人の海出の法に實見政八辰年
於没所乳之と為後養員在綿非反也作

同國小縣款

帆塚村

百姓

官去

南邑二指四歳

持言の石の事

石之原者初年之時又相果あおむる
道ひ母諸共六七女れはより家業と所み

成長の道は耕作の道も人人並に晴色
不遠知と死に致す情神の苗村を村高石相
應人の付田地成る所り人の増作
手苗没所を付毎季粗相渡一村完作
出情は山畑中一と心掛は付四年百目之程
如情しき一も古に准一し付

右之段村没人の出出は依く寛政九己年

官言様武家時給没下札として為候長所粗武儀是候

同國依久郡

塩沢新田

百姓古高名清娘

たか

苗は口拾六歳

高

此者又古高名清老人持持病之由氣を
乃之誠候しつゝ男子宗高在はたか
聲石跡口の人お高名清共河も由親之氣
應ふ中し由し付夫婦合官の由河は茂

歌縁のきくたりを人毎に安んずはる親
公座より茂水淺市場に或穀物入り入
脊肩責賞は長を思目柱の働より
田畑に犯しよかた来り給ふ城川新水も
手一より汲山用意しつら高なる清波も
老人かた作事よむたりと一向出来ふ中
句論毎とわく宛茂水清は山の草是進も
老人の成り成り及川のほとり根たり人元
取始来しとてお親し中付の波物も茂
お背の茂意をた考りよとて大切なる愛は付
右の辰村及び人分許出い法し寛政六寅年
於彼所紀とて為後後より粗部俵巻帳

因園因歌

因村

百姓合老馬子

多々吉

尚也三指四也

高

此者、今右軍九ヶ年、以家、強病、おれ、後
 痲疾、長、おれ、一向、耕作、我、用、之、常、山
 往、此、母、每、年、去、年、未、之、成、と、申、す、不、相、替
 申、者、病、い、き、多、左、毎、年、人、先、あ、り、
 物、販、之、用、意、致、亦、今、去、年、と、大、減、た、り、せ
 母、每、年、去、年、之、風、雨、と、大、所、難、多、り、川、干、涸、り、
 出、情、致、貧、窮、者、は、大、右、為、申、請、家
 村、役、人、之、代、女、も、少、く、申、請、山、田、田、租、毎、年、
 為、人、之、金、志、趣、と、大、切、に、申、請、山、田、田、租、毎、年、
 申、請、何、等、お、相、省、は、山、田、村、中、者、も、申、請、役、人、
 右、之、後、村、役、人、申、出、山、田、田、租、實、政、六、箇、年、
 於、役、不、執、之、と、為、役、長、申、請、武、儀、遠、造、儀、

持高之石三斗六升斗合

同國同郡
 山部村
 百姓

要安藏
 尚已五十一歳

以者生得自實之耕作と勵一度百
 姓代勤はる先貧窮は仍と没後と退す
 丈抑は老母小孝公令く毎度如るく
 涙涙丹敷度此起所成花神 名
 農業もも働ふこと苦成母小徳し 氣と
 ろくを免るあの子法武人育く由親れ孝
 道成見る自家口一和して是又父母
 孝養長とらる 由親く方地所實由窮の
 申老母食也成好も清ひ公徳はし
 比の更り睦友は其に付
 右之後村没人の訴出は流し實人没せ年
 能没不礼として為復長尺粗武儀を以

持高部石の計を并

同國同郡

同村

百姓姓を子

久昌

尚已指八歳

世者幼年より病身に付醫業試学以
 孝心付父母中事河よてと不相背女房
 要儀知是亦事和百有親の心不計ひ
 老又農より西のほを湯杯持出儀嬢を因ひ
 好れ食物試せしめ起所たふ又婦を
 大切ししきしん年母長く好ひし事
 革食物少く計ひは武と有負ひ氣
 思ひえ昌地出の時と女房別儀試
 既小母お果し海を好物おのし
 懐中し納蘇て流色莫事おしたは
 人共孝と稱せしと推移成波系は自孝と
 思ひし海とまこれ孝のたると起るは月
 右に後取及人下海出の依し實政の真本
 於彼所紀之を履更相武儀遺儀

持高を石六守

同國日記

甲子年正月

後日記

あはれ宿之儀

右取置印後中一耕作出情し一年
親類組合より近き代改世任公得遠候
且見紙如くも者より負窮はほしく
あつと得作心深く寄物成りの有
右之取材役人出出以迄に實改改年
於以所紀之上為慶長より本綿武反巻候

同國日記
山部村

百姓より借給金銀
高橋善右衛門
南に取置置

持高九拾石七斗

右取置右取置
寄物之取計程より有之付先年度
中獲既小田字節口近括免しは如由特
及老年病身成付候事右取置の

友に道ひあり又傳ふ事志誠決意特
之取計程之有し親類親戚しものも
田畑半分考し自方之好付作候と
老父は河ひ取計少故父の好小不遠
自實之也粗相軍作付

右之取計及所申出中実云いと實取等
苗字あり又同姓名免し中作

同國小縣郡

下茂子村

百姓

佐助

寛文九年

持高は名あり八年

右之者生得自高正其の如若年
耕作出情しきし一御出者見分
かきし小男正其の得其の年
農業お師の及八族余其に在成らる哉

農具束一し佃打役一しと業者
との関係はたゞ一かたの向備隣村
乃このまゝ感懐付
右之取付役人より所出の儀に實政六年
於後所記と為る儀其大粗式儀也

右之通津府帳以上

牧野大藏家来

文化六己巳年十二月

榎範藏



信濃國小諸郡分

孝乃守持之者名前帳

牧野大藏家集

棟

範藏

牧野大藏領分
信濃國信濃郡

牧野大藏領分

牧野大藏領分

信濃國信濃郡

八重原村石目

仲云清

南条松庵

持高武拾八年申亥谷

右之者儀養母孝公以書畫一石准ト

萬事一身美かりとのし有實政を其筆筆力

差免帳

同國同歌

小諸在所

同鑑 魚帶

持高四石之年裁并冷文

大右邊

崇禎三歲

右之者兩段中月並並處至極身實與相如
一併貧需窮之者此海也如潔白取中候
百姓亦好月宜法行月為獲與文化之度

年一節口差免候

同國同歌

後平村名

法右邊

崇禎三歲

右之者生海人惠山深一材之取中
官事多之月所及所時之為獲與粗造

處于身家存自原く常存漢村方
一統口配方い〜寄持る方との有又候
文化之度年一於及所為舊文相違ひ

田圃因形

原田村石白

持高石七斗

安右廓

榮屋松蔵

右之者初物宜浦村方一統以属第一統
波帰腹其く子曲川性還揚國及津普猪
之角有松辰出情亦氣方斗方在是時
為舊文文化己年一帯力方免領目是
之列中対ひ

田圃因形

下之蔵村石白

持高共七石六斗七升

渡部右之清

南条松蔵

右之者、初は家持を侍との如百姓一統を
宣旨を取締り、悉く以届地村に者迄、當
坐より、身寄り、力に免、並に其後、後
宗持あり、儀、及く、此、舟、身、寄、定、政、二、三、年、
苗、名、左、免、也

田圃田部

渡部右之清子

仲次

南条松蔵

右之者、右之代、初は、中、身、如、實、作、相、初、寄、
持、身、文、化、四、十、年、領、り、目、見、之、列、中、身、也

田圃田部

南条井村右之

右之者、
南条九十歳

南条九十歳

田宿

田屋

中陳

石互

兼常

持高松武平

傳左邊

崇禎

石互

持高松武平

崇禎

崇禎

右之者其汲汲中其地助乃方取扱并村方
其端宜元身其質窮之宿方而付還南
向以也村方其續也相其意也後之困窮
其度也相汲之者中其地實意也其方端
取中其地也其材方其材方其材方其材方
其續也其材方其材方其材方其材方其材方
其材方其材方其材方其材方其材方其材方
其材方其材方其材方其材方其材方其材方

田宿田宿

観音寺新田

但以

持高武松七五斗森界

石右馬

南条松蔵

右當村者新田地早損之難減出有作處
近年村方百姓裏作有没所中三右村
方收細高一分一十年一村百姓別没領
之由云云石右馬より相領出之家存心云應

字山邊云守持之公入月享和之三亥年於
没所為之松中村少之時之為瘡久相遣云

田圃同致

中内村右白

淡右馬

南条松蔵

右者村方田地百字前法中此地通
有收細成減作事一と右没右馬多年

不中意存最享和元四年没所也之
前沃田既收納高令相納江法相
取廻田既普法江收納高令相納江法相
定一村之取斗方成右准寄持本公入
月文化四卯年平為實長兵相違以

田圃小録

下丸子村名

將高松石七斗之并七合

助右邊
南条夜藏

右之者切羊名石及中付此是實身
相知元其田實躬之村方既亡所成相本
之處取端官及色名國成百好其後
在江一併當人負實躬比大只掛官領之成
致心百好之憐也及一村人氣も官年自比出
いたし高松の方も高札有るの場所
畧者字も石及申の類も雨天等も成の末
とすお用急及相成名通り惣も者り

今同浦成之之正也相氣以月為曆久矣此
四卯年領之日身念列中身

田園山家

瀧原村百姓

初右邊子

龜古席

南東三拾歲

持高之身之年

右之者古親者之書——身實改六

寅年於及所相也

田園山家

山浦村百姓

喜原惠子

了之助

南東三拾歲

持高之身之年

田園山家

了之助

南東三拾歲

右史婦も。格別孝公。以丹身實政
二箇年於汲所為慶為相違也

同國同部

同村同身

女之席

南条三拾三歳

持高き石之平

田人書房

石之平

南条三拾三歳

右之志も。格別孝公。以丹身實政。二箇年
於汲所為慶

同國同部

八重五村同身

徳右邊

南条三拾三歳

持高九升

右之志の親不孝公。以丹身實政
七箇年。為慶為相違也

同出部

原沢村

持方九年七月

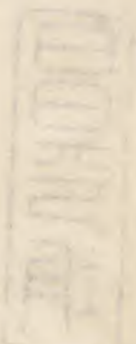
奥山部

由

尚書

右宗持方伯との不肖文化之辰年自
式貴文遣

同出部



山浦村

尼

志の

尚書

右と尼と親と孝養厚く其身を病
を身公其との不肖文化之辰年於
及所方持方伯相遣

右之者云云也年相殘以之書而通
法府右之外考以舟特者之書府
以之

牧師大藏家集

文化八年癸未年十二月八日 榎 範 藏

000000

内閣
圖書

